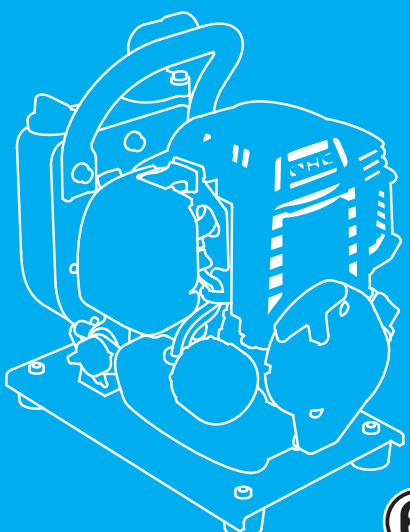
HONDA
汎用製品

ポンプ

WX10

取扱説明書



e SPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

・本機を操作するときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいたポンプで安全かつ能率的な作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう‥4
安全ラベル ‥‥‥

燃料タンクの清掃 ・・・

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給し、燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気口は風通しの良い場所に向け、ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内など換気の悪い場所では使用しないでください。酸素不足や有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

警告

- 本機は平坦な場所で使用してください。不整地(地面が凹凸していたり軟らかい場所)や傾斜地、崖の近くで使用すると、本機が振動により転倒、移動、落下し損傷するばかりでなく、燃料漏れにより火災のおそれがあります。
- 本機の改造は行わないでください。故障の原因となるばかりでなく思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 海水、化学薬品、油脂類などには使用しないでください。本機は海水、化学薬品、油脂類などによる腐食を防止する対策は施されていないため故障の原因となります。
- 泥水を吸水しないでください。ポンプ内部が損傷するおそれがあります。
- ガソリンなどの燃えやすい液体や、酸など酸性の強い液体には使用しないでください。本機を損傷するばかりでなく、火災や爆発などが発生し死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- メタンガスなど可燃性のガスが発生する可能性のある場所では使用しないでください。火災や爆発などにより死傷事故のおそれがあります。また下水道などで使用する場合は、可燃性のガスが発生していないことを確認してから吸水してください。

●使用中

- 使用中は建物およびその他の施設から、本機を１ｍ以上離してください。また本機のまわりに危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすい物(わらくず、紙くずなど)を近づけないでください。
  本機の熱や排気ガスにより火災のおそれがあります。
- 使用中に送水(吸水)しなくなった場合は、すぐにエンジンを止めてください。送水(吸水)しない状態で運転を続けると、ポンプ内の残水が過熱し誤って触れるとヤケドをするおそれがあります。
- 使用中や停止直後はエンジン本体やマフラなどに触れないでください。熱によりヤケドをするおそれがあります。
- 使用中は本機を傾斜させたり、移動しないでください。転倒や振動などにより燃料漏れを起こすおそれがあります。

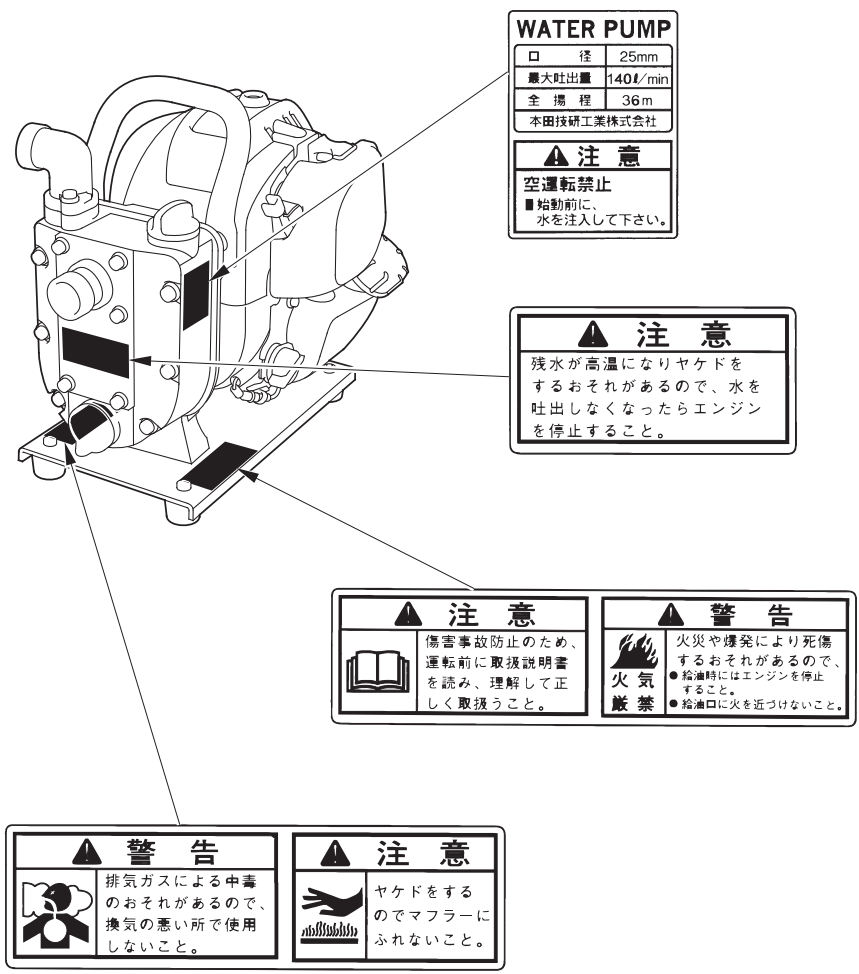
警告

●使い終わったら

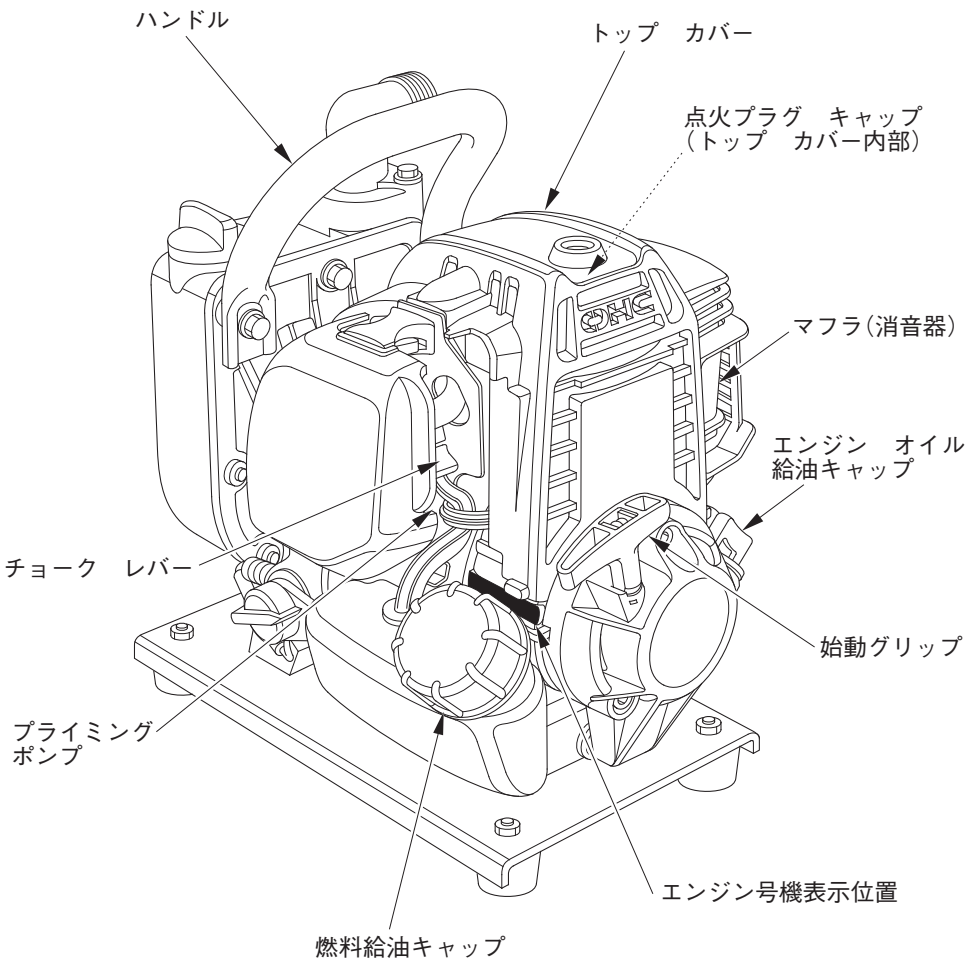
- 気温が低く水が凍結する気象条件で使用した場合は、排水プラグを外しポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が残っていると凍結し、部品が破損するおそれがあります。
- 各部の点検･清掃で本機に触れるときは、エンジンを停止し各部が冷えるまで十分に時間をおいてください。
- 長期保管前には、タンク内の燃料を抜き取り本機を火気や湿気のないところに保管してください。また、抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発の危険があるので、所定の燃料タンクなどに入れ保管してください。
- 運搬時には、燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜き取り、本機が転倒したり動いたりしないようしっかり固定してください。

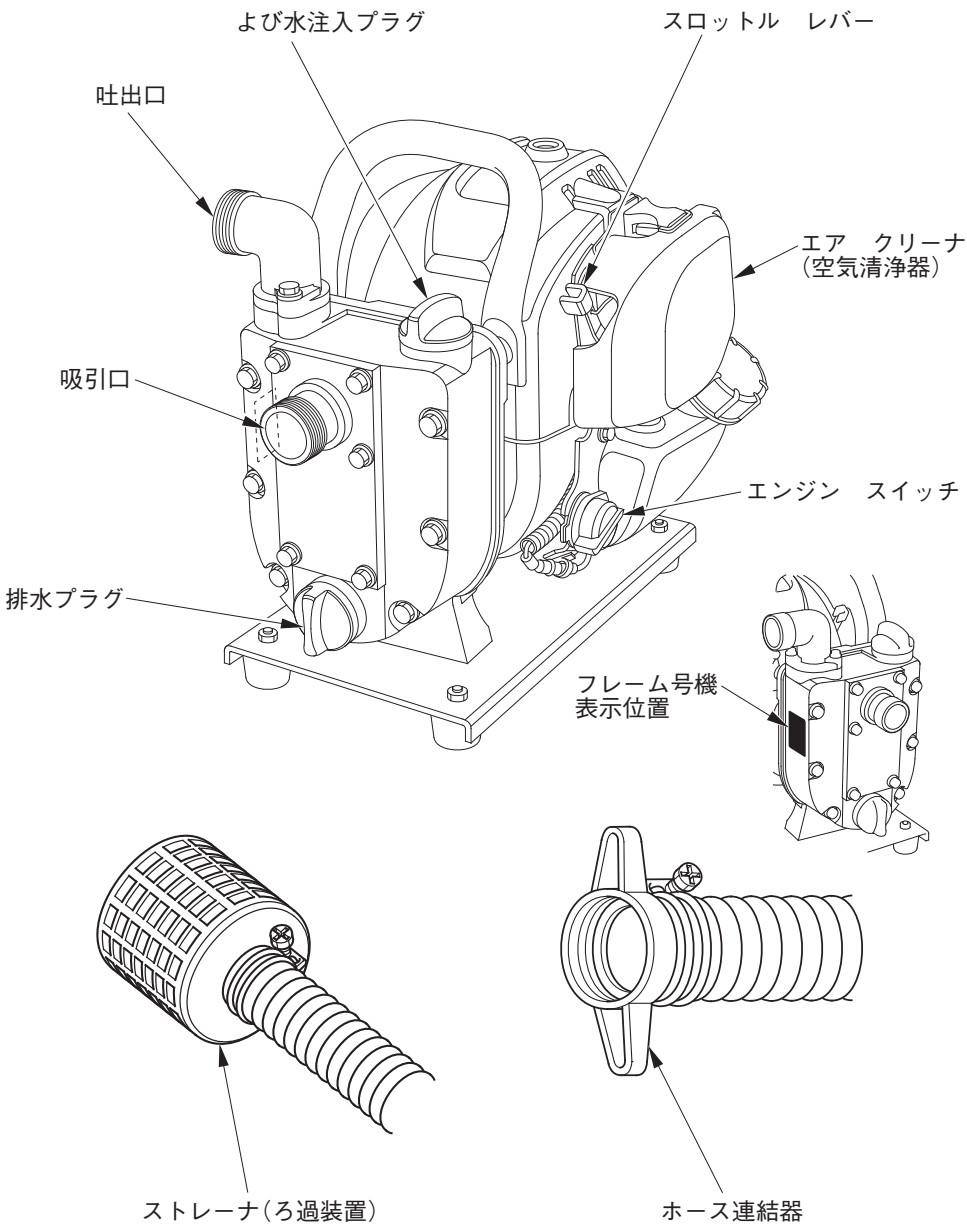
●安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



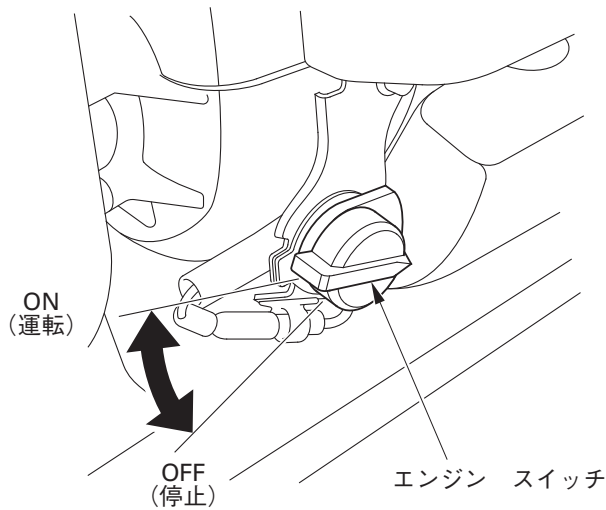
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




よび水注入プラグ
スロットル　レバー
吐出口
エア　クリーナ
（空気清浄器）
吸引口
エンジン　スイッチ
排水プラグ
フレーム号機
表示位置
ストレーナ（ろ過装置）
ホース連結器

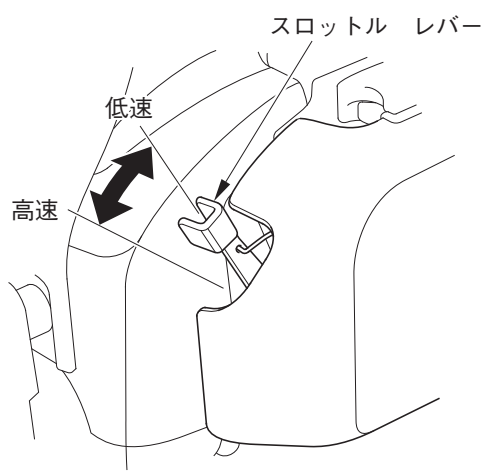
エンジン　スイッチ

エンジンを運転、停止させるときに操作します。



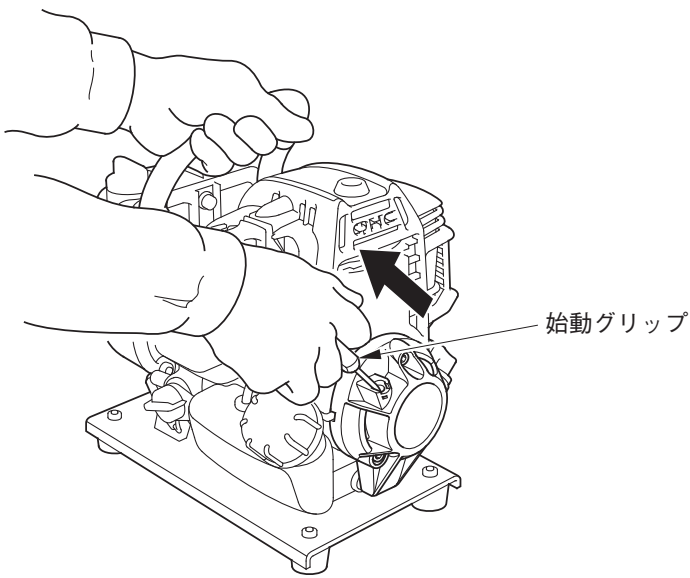
スロットル　レバー

エンジン回転を調整するものです。
レバーをさげる(高速側)とエンジン回転が速くなります、レバーをあげる(低速側)とエンジン回転が遅くなります。
ポンプの回転は、エンジン回転と連動します。



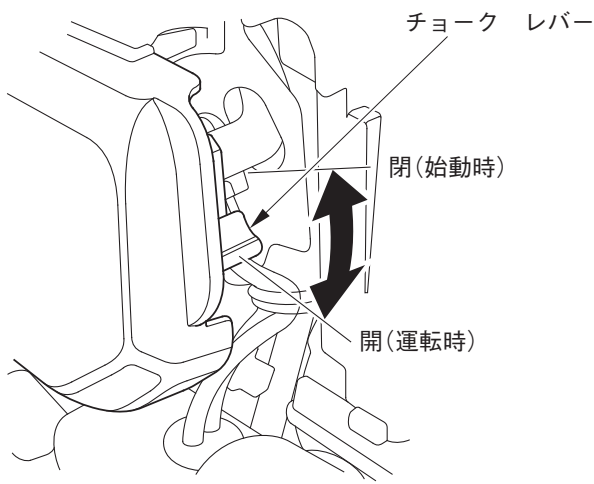
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



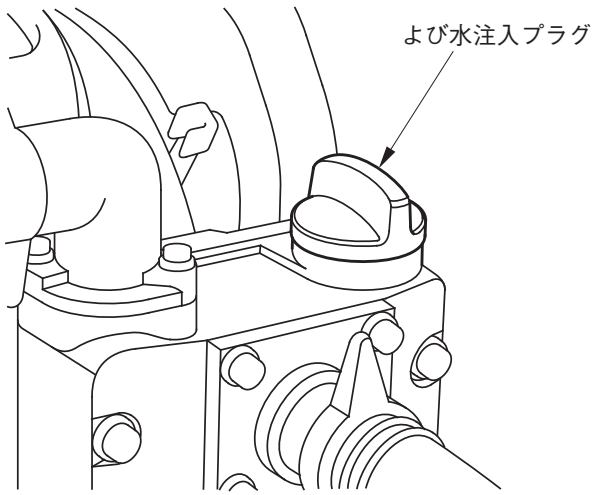
チョーク　レバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



よび水注入プラグ

ポンプによび水を注入するときに使用します。



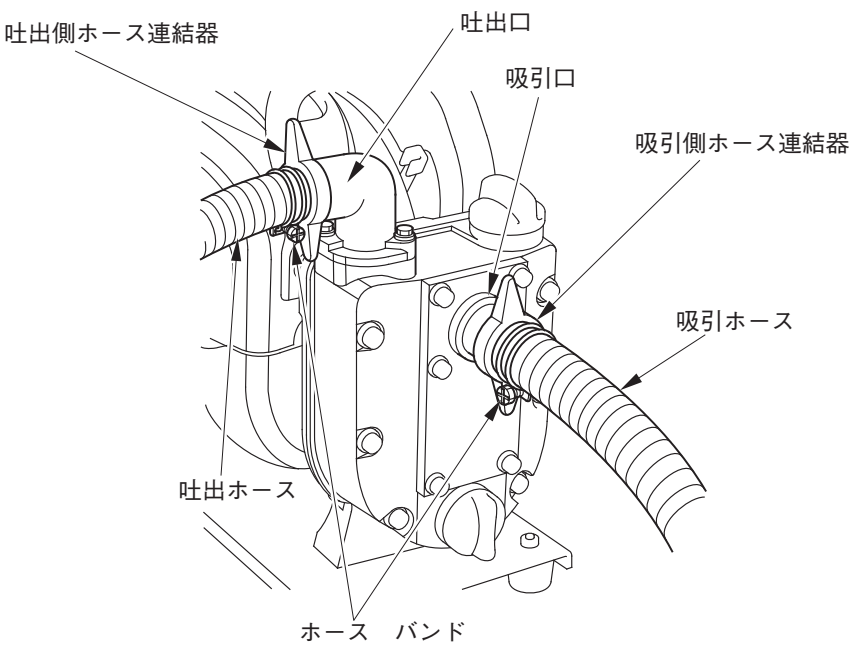
ホースの取付けかた

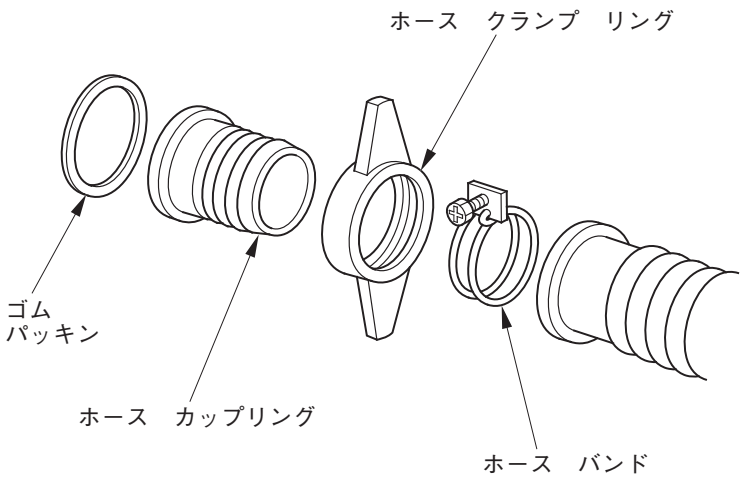
吸引ホース

1. 吸引側ホース連結器に吸引ホースを取付け、ホース　バンドを確実に締付けます。
2. ホース連結器にゴム　パッキンを付け、ホース連結器を吸引口に確実に締付けます。
3. 吸引ホースの先端にストレーナ(ろ過装置)を取付け、ホース　バンドを確実に締付けます。

取扱いのポイント

- ホース　バンド、ホース連結器を確実に締付け空気が入るのを防止してください。締付けが不完全だと吸水しない場合があります。
- 吸引ホースの長さは短いほど吸込量が多く、吸水時間が短くなります。極端にホースが長いと吸水しない場合があります。
- 吸引ホースにはストレーナ(ろ過装置)を取付けてください。ストレーナ(ろ過装置)を取付けないと土砂やその他の異物などにより、本機が損傷するおそれがあります。

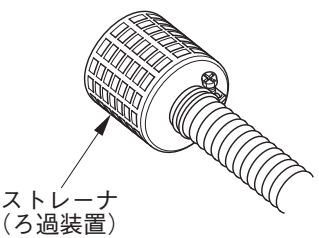




吐出ホース

1. 吐出側ホース連結器に吐出ホースを取付け、ホース　バンドで確実に締付けます。
2. ホース連結器にゴム　パッキンを付け、ホース連結器を吐出口に確実に締付けます。

●吸引･吐出ホースはお買いあげ販売店にご相談の上お買いもとめください。



エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

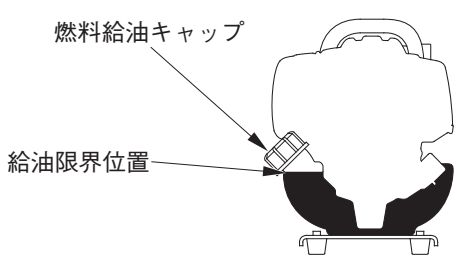
燃料の点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で補給してください。
・火気を近づけないでください。
・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれた場合は布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
・ガソリンは注入口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

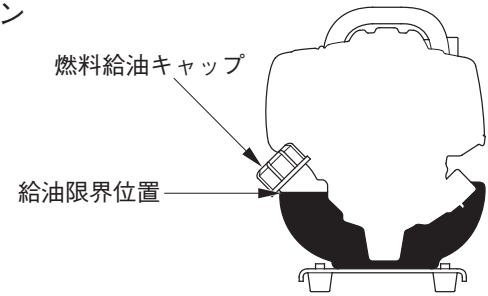
点　検

燃料タンクの外側より液面の位置を確認し、燃料の量を点検します。少ないときには図の給油限界位置を越えないように補給してください。



補　給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン



- 燃料給油キャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部との気圧差を取除きます。
  燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。
- 補給後、給油キャップを確実に締付けてください。また、給油キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

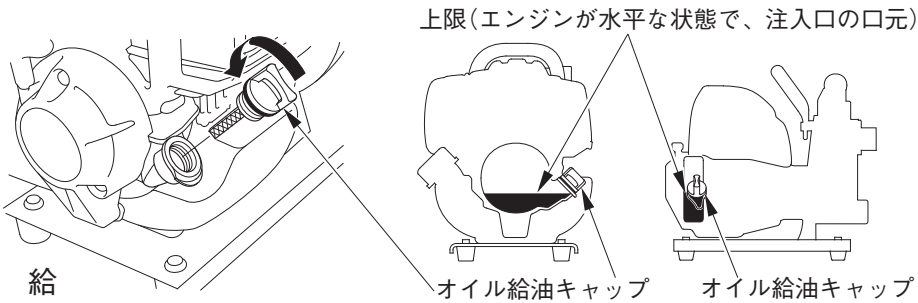
取扱いのポイント

- ガソリンにエンジン　オイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジン　オイルの点検

点　検

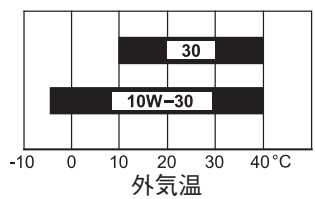
エンジンを水平にした状態でオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



補　給

- 少ないときには新しいオイルを注入口の口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は28、29頁参照）補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：（4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル）
  Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
  またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



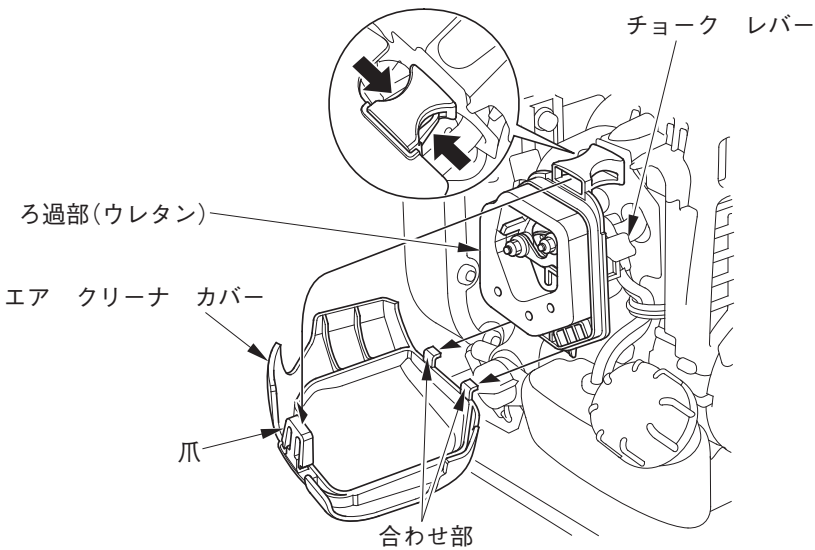
エンジン　オイル量：0.08 L

取扱いのポイント

- エンジンを連続運転する場合、10時間運転毎にエンジン　オイルの点検、補給を行ってください。
- エンジン　オイルの補給はオイル容量が小さいため、小量に分け注入してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

1. チョーク　レバーを上げます。
2. エア　クリーナ　カバーの上部の爪の両端をつまみ、手前に倒して外し、下部の合わせ部を離してエア　クリーナ　カバーを取外します。
3. ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
   汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(30頁参照)
4. エア　クリーナ　カバーを取付けます。
   エア　クリーナ　カバーの取付けは、下部の 2 か所の合わせ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。取付けたあと接続部が外れていないか確認してください。



取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

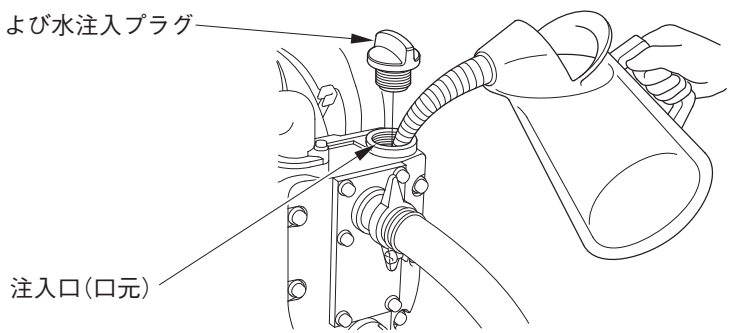
よび水の点検

よび水注入プラグを外し、注入口の口元いっぱいまでよび水があるか点検します。少ないときには補給してください。

- よび水が少ないとポンプは水を十分に吸い上げません。
- 補給後、よび水注入プラグを確実に締付けてください。

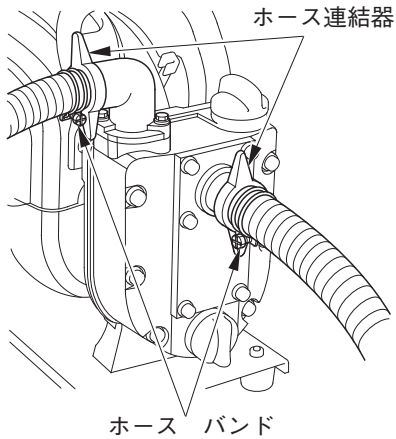
取扱いのポイント

- よび水なしでの空運転はしないでください。過熱してポンプのシール部を損傷するおそれがあります。万一空運転した場合は、エンジンを停止して、すぐによび水を入れずポンプ部の温度が下がってから入れてください。



ホース　バンド、ホース連結器の締付け点検

ホース　バンド、ホース連結器の締付けにゆるみがないか点検します。
締付けが十分でないときには、空気を吸い込み、吸水しない原因ともなりますので確実に締付けてください。

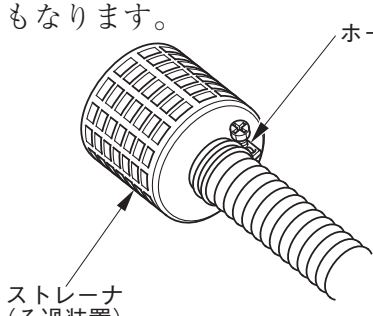


各部の締付け点検

各部のボルト、ナット類にゆるみがないか点検します。
ボルト、ナットにゆるみがある場合は確実に締付けてください。

ストレーナ(ろ過装置)の点検

・ホース　バンドの締付けにゆるみがないか点検します。
　ストレーナが外れていると石、小枝、その他の異物等を吸い込み損傷の原因になります。
・ストレーナが水中に沈んでいるか点検します。
　ストレーナが空中に出ていると空気を吸い込み、吸水しません。
　また損傷の原因にもなります。

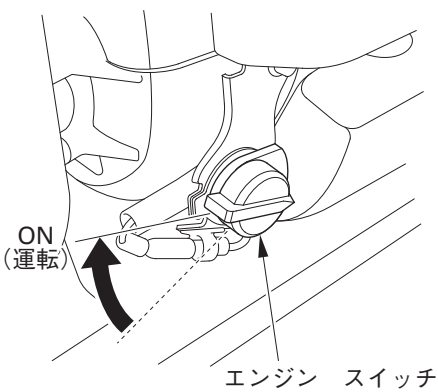


エンジンのかけかた

⚠警告

- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 本機は平坦な場所に設置してください。不整地(地面が凸凹していたり軟らかい場所)や傾斜地、崖の近くで使用すると、本機が振動により転倒、移動、落下し損傷するばかりでなく、燃料漏れにより火災のおそれがあります。
- トップ　カバーを外した状態で始動グリップを引いたり、エンジンを始動しないでください。高温部および回転部が露出するので、思わぬ事故の原因となります。

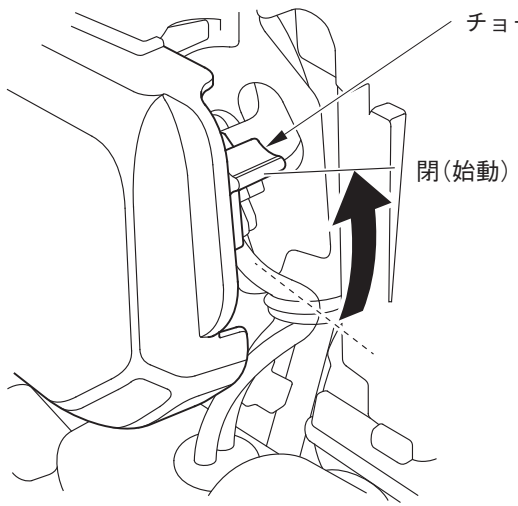
1. エンジン　スイッチを**“ON”**(運転)の位置に合わせます。



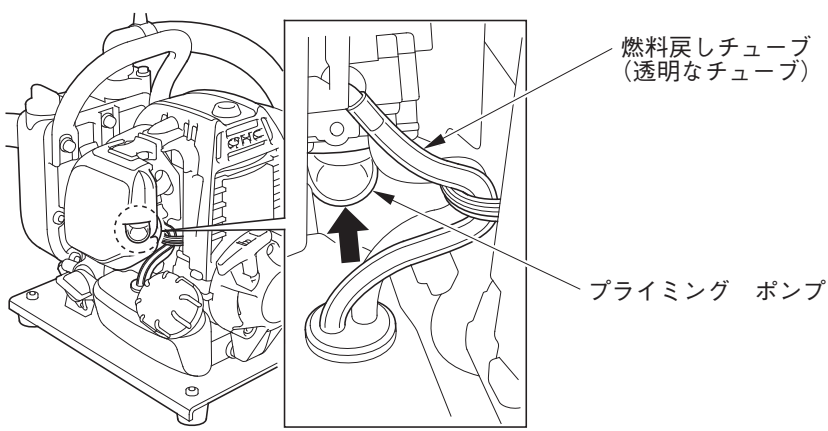
2. スロットル　レバーを約半分の位置まで動かします。



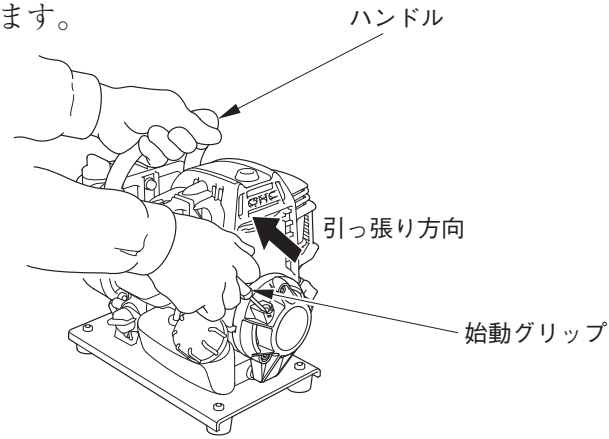
3. エンジンが冷えているときやエンジンがかかりにくいときには、チョーク　レバーを**“閉”(始動)**の位置に合わせます。
・エンジンが暖まっているときは操作不要です。



4. 燃料戻しチューブ(透明なチューブ)内に燃料が移動するまで、プライミング　ポンプを数回押します。



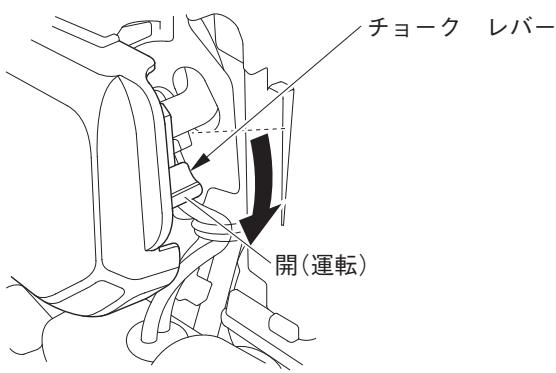
5. ハンドルを左手で握り、本機を押さえます。始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。エンジンが始動します。



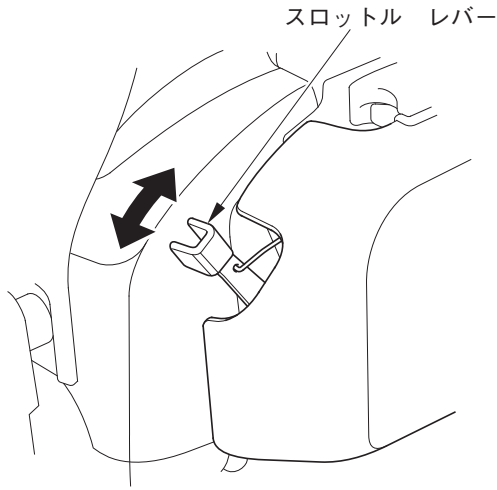
取扱いのポイント

- 始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- 始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。また運転中はグリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

6. 2 ～ 3 分間暖機運転を行います。
チョーク　レバーを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に戻します。



7. スロットル　レバーを使用したい回転に調節します。

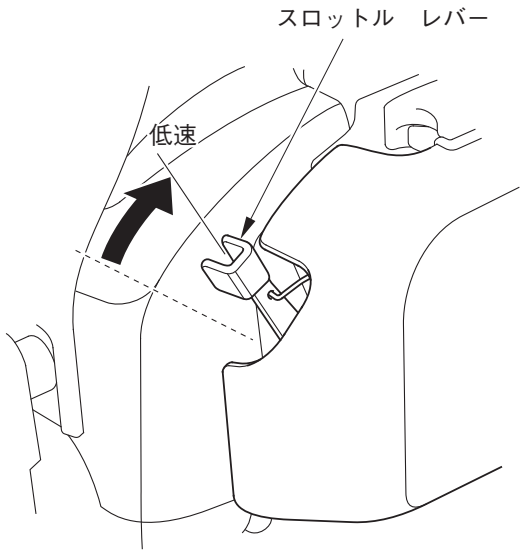


取扱いのポイント

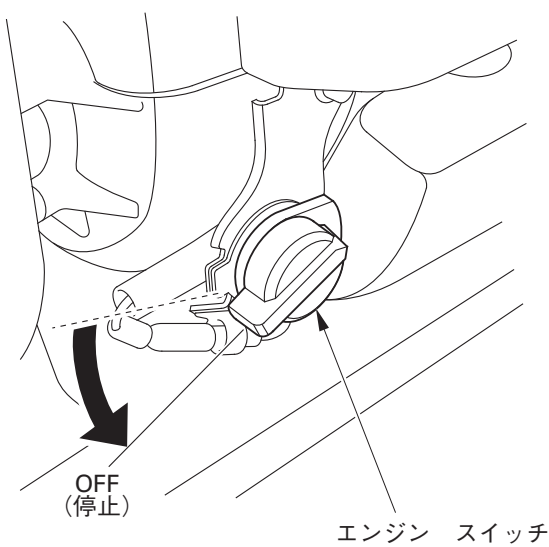
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

エンジンのとめかた

1. スロットル　レバーを“低速”の位置まで戻します。

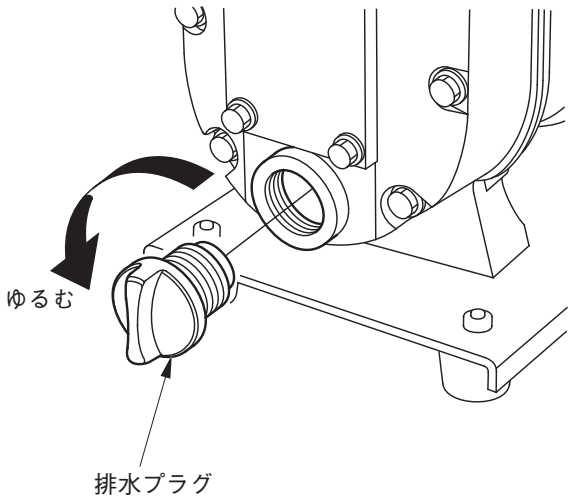


2. エンジン　スイッチを“OFF”(停止)の位置に合わせます。



取扱いのポイント

気温が低く水が凍結する気象条件で使用した場合は、排水プラグを外しポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が残っていると凍結し、部品が破損するおそれがあります。



定期点検を受けましょう

お買いあげいただきましたHondaポンプをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を受けましょう。

定期点検整備項目

点検時期(1)／点検項目		作業前点検	1か月目または初回10時間運転目	3か月毎または25時間運転毎	6か月毎または50時間運転毎	1年毎または100時間運転毎	2年毎または300時間運転毎
エンジン　オイル	点検	○					
	交換		○		○		
エア　クリーナ	点検	○					
	清掃			○(2)			
点火　プラグ	点検･調整					○	
	交換						○
冷却フィン	点検･清掃				○		
各部締付け	点検	○					
アイドル回転	点検･調整					○(3)	
吸入、排気弁のすきま	点検･調整					○(3)	
燃焼室	清掃	300時間運転毎(3)(4)					
燃料フィルタ	清掃					○	
燃料タンク	清掃					○	
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(3)					
オイル　チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(3)					
インペラ	点検					○(3)	
インペラ隙間	点検					○(3)	
インレット　バルブ	点検					○(3)	

(1)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(2)ホコリの多い所で使用した場合は、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

(3)適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施していただく項目です。

(4)表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠注意
点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

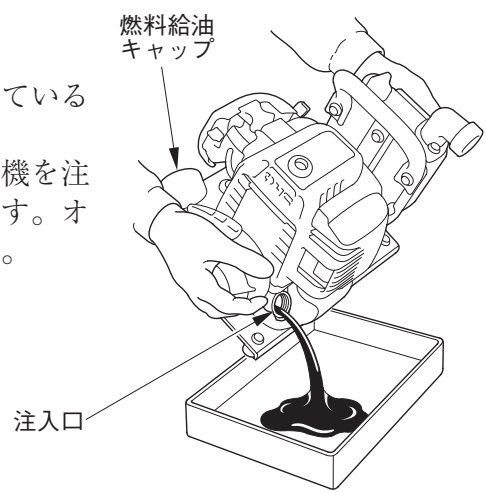
《交換時期》
初回：1か月目または10時間運転目
以後：6か月毎または50時間運転毎

《推奨オイル》(4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル)
Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

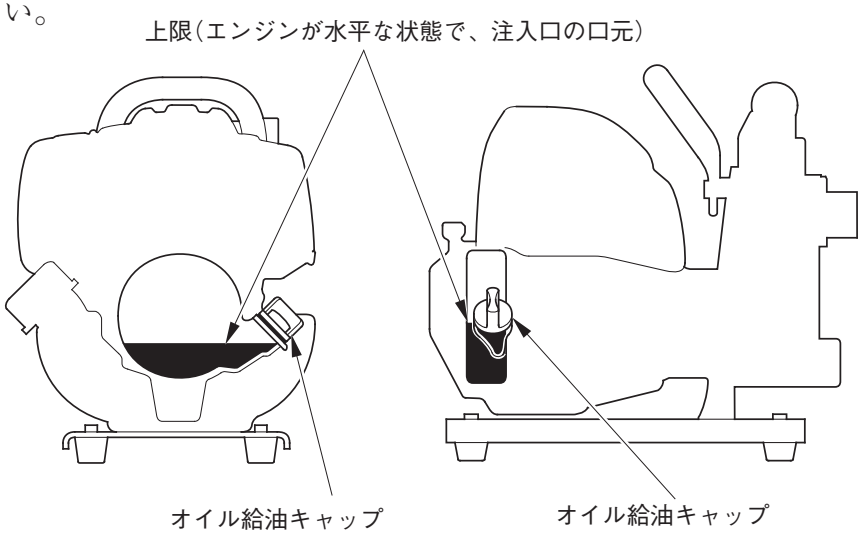
《規定量》 0.08 L

⚠注意
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

《交換のしかた》
1. 燃料給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. オイル給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、オイルを抜きます。オイルは、容器に受けてください。



3. 本機を水平にした状態で、新しいエンジン　オイルを注入口の口元まで注入します。オイル容量が小さいため、少量に分けて注入してください。



4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上処理してください。
- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア　クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

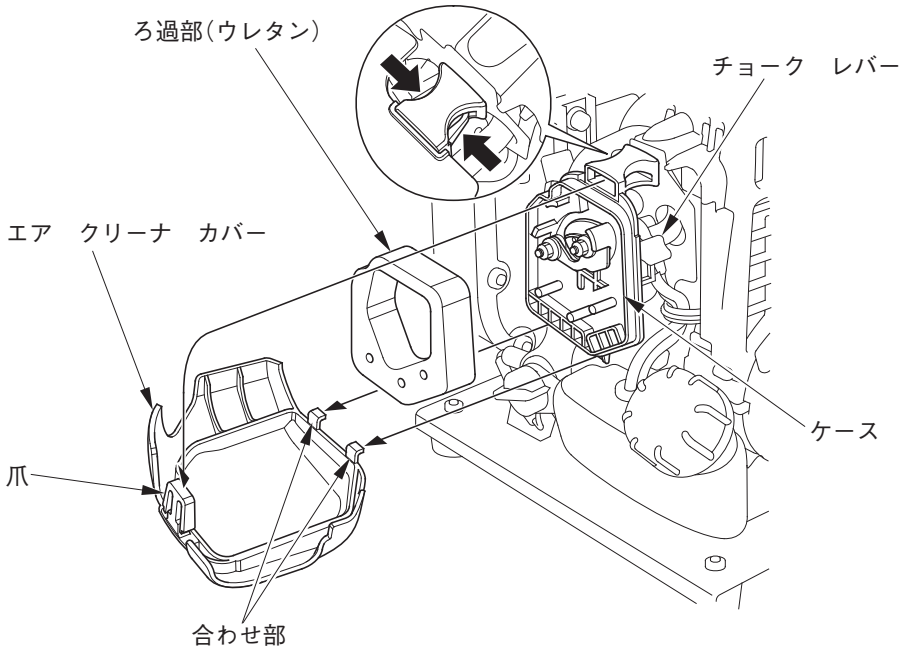
⚠警告

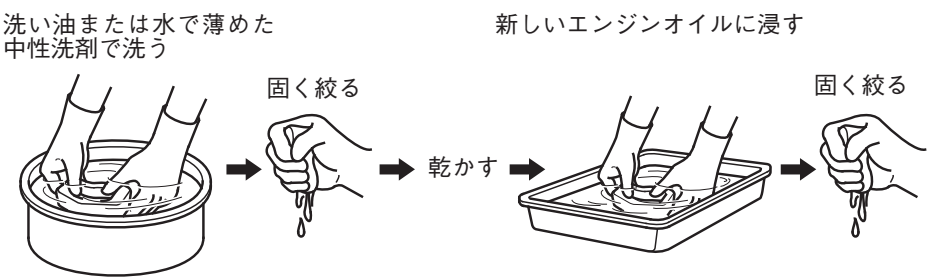
洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》　3か月毎または25時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は10時間運転毎または1日1回。

《清掃のしかた》

1. チョーク　レバーを上げます。
2. エア　クリーナ　カバーを取外し、ろ過部(ウレタン)を取外します。
   エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪の両端をつまみ、手前に倒し上部を外した後、下部の合わせ部を離して行います。
3. ろ過部を洗い油または水で薄めた中性洗剤で洗い、よく絞ってから乾かします。
4. ろ過部を新しいエンジン　オイルに浸した後、固く絞ります。
5. エア　クリーナ　カバーおよびケースの内側に付着している汚れをウエス等で取り除きます。この時キャブレータにゴミ等が入らないように注意してください。
6. ろ過部、エア　クリーナ　カバーを取付けます。
   エア　クリーナ　カバーの取付けは、2か所の合わせ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。取付けたあと接続部が外れていないか確認してください。





取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検･調整･交換

⚠注意

エンジン停止直後マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

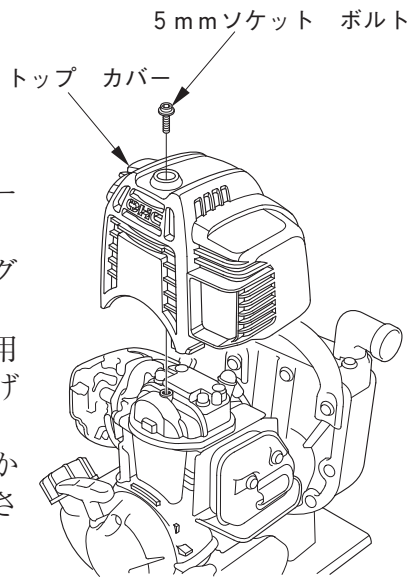
《点検･調整時期》

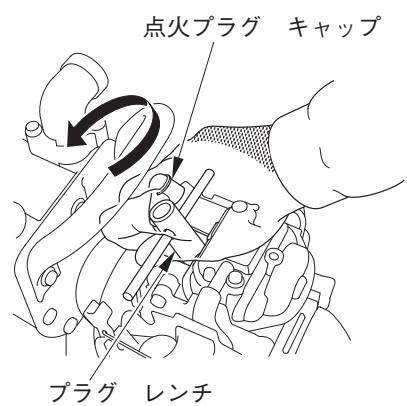
１年毎または100時間運転毎

《清掃のしかた》

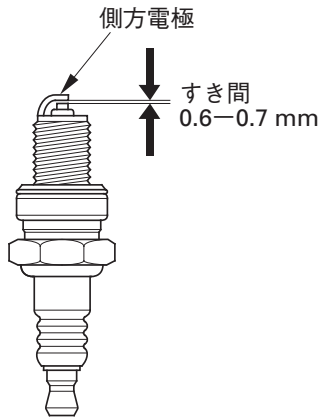
1. 六角レンチを使用して５ｍｍソケットボルトを十分にゆるめ、トップ　カバーを取外します。
2. 点火プラグ　キャップを外して、プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
3. プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

● プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。





《調　整》
4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
　火花すき間：0.6－0.7 mm
《交換時期》　2 年毎または300時間運転毎
《標準プラグ》
　CM5H (NGK)



取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
  点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締込んでください。
- 点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付けてください。
  確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

燃料タンクの清掃

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

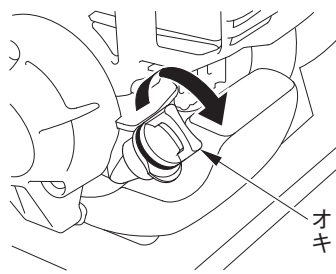
燃料タンク内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

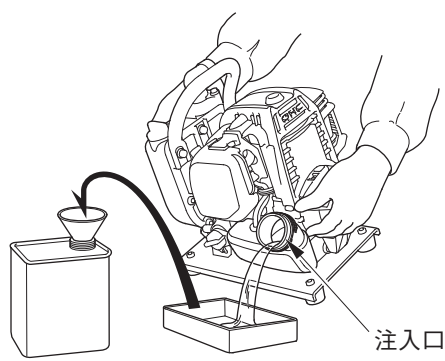
《清掃時期》

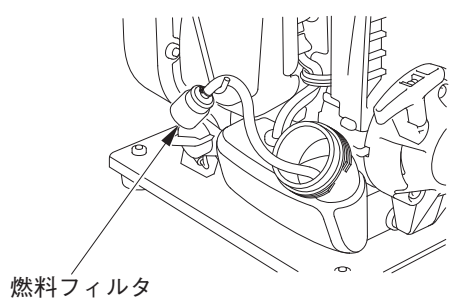
1年毎または100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、燃料を抜きます。燃料は容器に受けてください。
3. 燃料フィルタを針金などを使い、注入口から引き出します。
4. 燃料タンク内部を洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
5. 燃料タンクから洗い油を抜き、燃料タンク内を十分に乾燥させます。
6. 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。







燃料フィルタの清掃

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

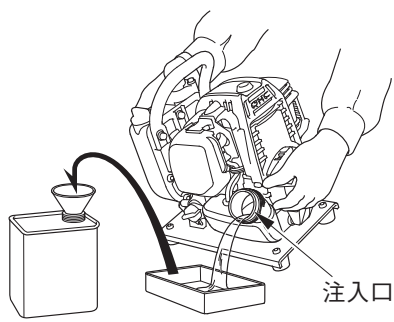
燃料フィルタが目詰りするとエンジン不調の原因となります。

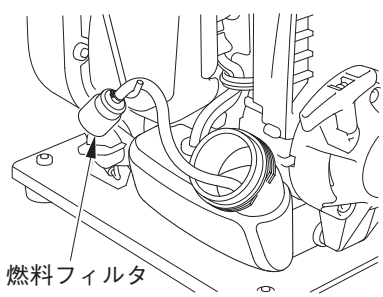
《清掃時期》

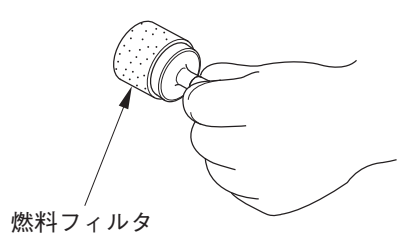
１年毎または100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。(34頁参照)
2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、燃料を抜きます。燃料は容器に受けてください。
3. 燃料フィルタを針金などを使い、注入口から引き出します。
4. 燃料フィルタを洗い油で洗って燃料フィルタ表面の汚れを落します。燃料フィルタの汚れが著しい場合は、交換してください。
5. 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。





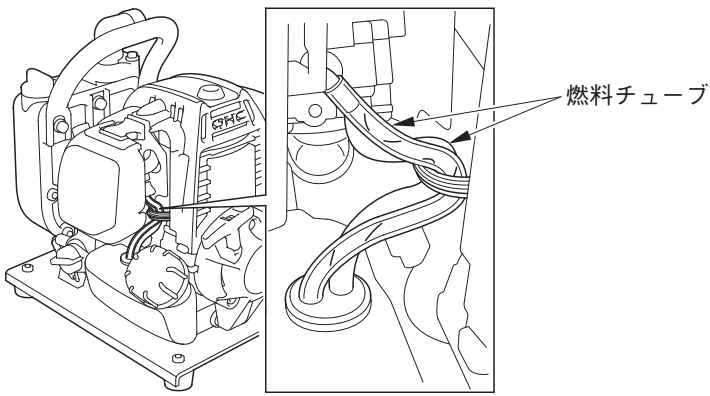


燃料チューブの点検

《点検時期》　2 年毎

《点検のしかた》

燃料チューブに劣化、ひび割れ、燃料漏れがないことを確認します。異常がある場合は交換が必要です。お買いあげの販売店で実施してください。

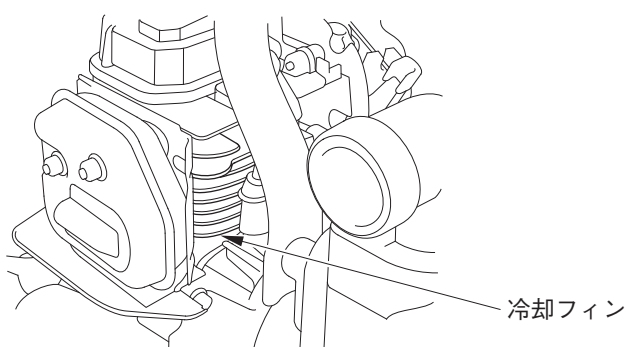


冷却フィンの点検･清掃

《点検時期》　6 か月毎または50時間運転毎

《点検のしかた》

1. 六角レンチを使用して５ｍｍソケット　ボルトを十分にゆるめ、トップ　カバーを取外します。(32頁参照)
2. 冷却フィンを目視で点検し、草、芝、泥などによる詰まりがないことを確認します。
   詰まりがある場合は清掃してください。



長期間使用しないときの手入れ

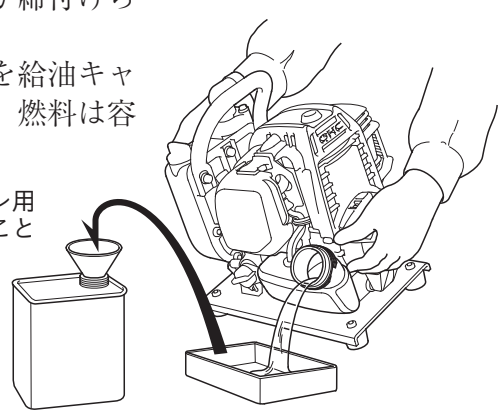
★長時間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

⚠注意
エンジン停止直後はエンジン本体マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

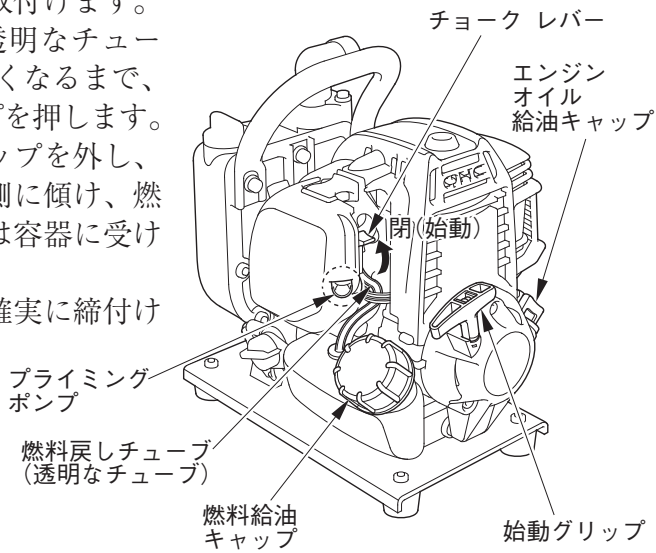
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため、点火プラグ　キャップを点火プラグから取外してください。
1. 本機の表面からグリース、オイル、汚れ、土の固まりなどの付着物を取除いてください。
2. 燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜いてください。

⚠警告
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

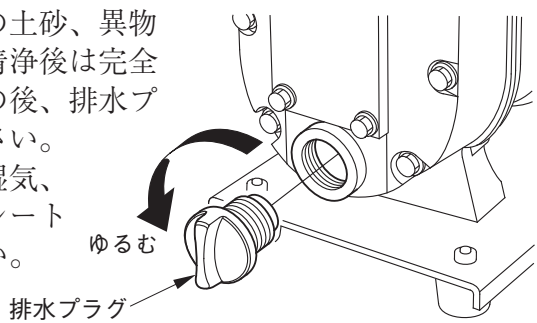
《抜きかた》
1. エンジン　オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を給油キャップ側に傾け、燃料を抜きます。燃料は容器に受けてください。



3. 燃料給油キャップを取付けます。
4. 燃料戻しチューブ(透明なチューブ)内のガソリンがなくなるまで、プライミング　ポンプを押します。
5. 再度、燃料給油キャップを外し、本機を給油キャップ側に傾け、燃料を抜きます。燃料は容器に受けてください。
6. 燃料給油キャップを確実に締付けます。



3 エンジン　オイルを交換してください。(交換方法は28頁参照)
4 エア　クリーナ(空気清浄器)を清掃してください。(清掃方法は30頁参照)
5 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。
6 チョーク　レバーを上げ、**"閉"(始動)**の位置にしてください。
7 排水プラグを外し、吸引口または吐出口よりきれいな水でポンプ内の土砂、異物などを洗い出します。内部清浄後は完全に水を抜いてください。その後、排水プラグを確実に締付けてください。
8 子供の手の届かない場所で湿気、ホコリの少ないところに、シートなどかけて保管してください。



取扱いのポイント

- 次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。
- オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。(6か月に1回新しいオイルと交換)

故障のときは

まずご自分で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときには、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

エンジンがかかりにくいときは

運転後、エンジンを止めてしばらくたった後に再始動しようとすると、燃焼室内の混合気が濃くなり、エンジンがかかりにくくなることがあります。

次の１～４の操作を行って濃い混合気を排出してください。

1. エンジン　スイッチを“停止”の位置にします。
2. チョーク　レバーを下げた位置にしてください。
3. スロットル　レバーを“高速”の位置にします。
4. 始動グリップを３～５回引きます。

⚠注意

エンジン　スイッチは必ず“停止”の位置にしてください。
“運転”の位置で行うと、エンジンが始動した場合、作業機が動き出しけがをするおそれがあります。

- 「エンジンのかけかた」(21頁)の手順に従って、エンジンを始動してください。
  ・チョーク　レバーは下げた状態で始動してください。

不具合の内容	点検(故障診断)		原因(状態)	対　応
エンジンが始動しない	始動手順	21～24頁の手順を守っていない	エンジン スイッチが“停止”	“運転”にする
			プライミング ポンプを押していない	6～7回押す
			始動グリップの引きかたが遅い	勢いよく引く
	燃料タンク内の燃料	ない	燃料切れ	補給(15頁参照)
		ある	燃料フィルタの目づまり	清掃(35頁参照)
			燃料系の目づまり	販売店で点検整備
			キャブレータの異常	販売店で点検整備
	点火プラグ キャップ	外れてる	点火プラグ キャップの点火プラグへの取付け不良	確実に取付ける
	点火プラグ	電極の不良	汚れ、ぬれ	清掃(32頁参照)
			火花すきまの異常	調整(33頁参照)
			その他の点火プラグ異常	交換
エンジンが加速しない	エア クリーナのろ過部	汚れてる	ろ過部の目づまり	清掃(30頁参照)
	燃料フィルタ	汚れてる	燃料フィルタの目づまり	清掃(35頁参照)

ポンプが吸水しないとき、または揚水量が少ないときは次の点を確認しましょう。

- ホース　バンド、ホース連結器の締付けは完全ですか?
- よび水は吐出口の下面まで入っていますか?
- 吸引ホースが長過ぎませんか?
- 吸込揚程が高過ぎ(最大8m)ませんか?
- ストレーナが水中に沈んでいますか?

主要諸元

〈ポンプ〉

項目	主要諸元
モデル	WX10K1
型式	WATJ
吸込側口径	25 mm (1インチ)
吐出側口径	25 mm (1インチ)
全揚程	最大36 m
吸込揚程	最大8 m
最大吐出量	毎分140 L
回転方向	反時計方向(吸引口から見て)
外観寸法	
全長	325 mm
全幅	220 mm
全高	300 mm
乾燥質量(重量)	6.1 kg

〈エンジン〉

モデル	GX25T
形式	空冷 4 ストロークガソリン(OHC)
排気量	25.0 cm^3
点火方式	トランジスタ　マグネト点火
オイル量	0.08 L
燃料タンク容量	0.47 L
点火プラグ	CM5H (NGK)

※諸元は予告なく変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

メ　モ

Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

HONDA

The Power of Dreams

30YE9605
00X30-YE9-6051

Ⓢ Ⓞ (HC) 500.2010.03
© 2007 本田技研工業株式会社